平成28年 Case 5

長州ながと水産株式会社

業種 ▶ 水産養殖業

養殖設備増強による仙崎産トラフグの海外市場開拓

養殖設備を増強し高級トラフグを増産する。また、養殖したトラフグを身欠き加工し、海外日本食レストランへ輸出、海外での和食ブームを取込み、当社の成長・地域活性化を加速する。

本事業の取組み経緯

当社のトラフグ養殖・加工事業は、日本海の清浄な海水を自然の力でできたトンネルから直接水槽に引き込み、陸上養殖を行う点や、海水温が九州地方より若干低いので、肉質の良い、身の締まった養殖魚の生産が可能である点で他社との差別化を図っている。しかしながら近年、フグ養殖は魚価低迷や中国市場の台頭などで苦しい状況が続いており、今後はブランド力を活かし、海外販売も視野にいれた業務拡大が企業存続において不可欠な条件であると考える。そのために漁獲量を増やすための養殖設備の増設に取り組んだ。

本事業の取組み成果

養殖設備の増設により、出荷するフグの量も約2倍に増え、増産したフグを身欠き加工し、海外日本食レストランへ輸出することができるようになった。山口県産フグは海外輸出実績があり、今後は販路開拓で連携している、ながと物産合同会社が山口県と関係のある日本食レストランと協議し、今回の生産増強分を海外の日本食レストラン等へ輸出し、海外での日本食ブームを牽引していきたい。また、下関ふく輸出組合との協調輸出やJETRO、フォーリン・プレスセンターと連携して現地の水産物輸入商社と商談する予定である。現在の出荷量は40.3t、売上高1.2億円を達成し、安定した収益体制を確立することができるようになった。

ものづくり補助金の導入

①アース式FRP組立水槽:ふぐを養殖するための水槽
②酸素発生装置:夏場の酸素濃度が下がる時期も、酸素濃度を一定に保ち、魚の成長効率を上げる。
③水中ポンプ:陸上養殖の心臓部で、水量を一定に保ち各水槽の環境を良くする。
④自吸式ポンプ:酸素発生装置から送り込まれた酸素を水槽に溶かす。
⑤発電機:停電によるポンプや酸素発生装置停止による魚死を回避する。

- 長州ながと水産株式会社　● 平成26年11月17日創業
- 〒759-4106 山口県長門市仙崎2047番地3
- TEL 0837-26-3101　FAX 0837-26-3102
- 資本金 400万円　● 従業員数 5人

http://www.mitsuya-mtec.co.jp/index.html

養殖事業の維持・発展のため、長門市商工水産課、長門商工会議所、養殖事業者が結集して地域ブランド力の向上と、6次産業化による競争力の向上を目指し設立された。トラフグ4万尾、ヒラメ4万尾の養殖及び養殖したトラフグの活魚を、身欠き(有毒部位を除去する)加工・販売する。

ものづくり補助金で導入した水槽

日々欠かせない餌やり

水槽の中を泳ぐトラフグ

出荷の様子

選別作業の様子

今後の展望

養殖設備増設により品質に自信のある当社のトラフグを増産し、大勢の方にトラフグの旨さを味わっていただきたい。世界に羽ばたくトラフグ養殖のトップランナーを目指します。

取締役営業部長　安藤　雄紀